

合理的配慮とセルフアドボカシー

合理的配慮とセルフアドボカシーという言葉をご存じでしょうか。特別支援学校に勤務する私たちにとってはよく耳にする言葉ですが、一般的にはどの程度知られている言葉なのでしょう。今回はこのテーマについて、中学部の授業で行った内容を紹介します。

合理的配慮とは？

2024年4月1日に改正障害者差別解消法が施行され、民間事業者の合理的配慮提供が法的義務化されました。合理的配慮とは、障害者が社会の中で出会う、困りごと・障壁を取り除くための調整や変更のことです。

セルフアドボカシーとは？

自分自身で権利、利益、ニーズを主張すること。障害があっても、意見が尊重され、最善の利益が考慮されるための支援や自身の意見が代弁される権利のことです。

合理的配慮を受けるためには、まず自分のことを理解することが大切です。同じ聴覚障害でも求める支援方法は様々です。何が得意で、何が苦手か、そして聞こえやコミュニケーション方法についてはどうかなど自分自身のことについて考えて「私の説明書」を1年生が作成しました。

「私の説明書」



【聞こえについて】

- ・左から話してもらおうと聞き取りやすい
- ・音声だけでも大体聞こえる
- ・大声は聞こえるが、何と言っているかまではわからない
- ・周りがうるさい時や、小さい声は聞こえない

【コミュニケーションについて】

- ・手話
- ・ジェスチャー
- ・スマホのメモ機能
- ・筆談
- ・UDトーク

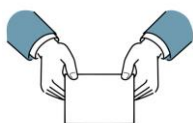
【勉強や会議で…】

- ・文字を出しながら進めてもらう
- ・一人ずつ話してもらおう
- ・動きをつけて誰が話しているかわかるようにしてもらう

【買い物で…】

- ・スマホのメモ機能に入力して店員さんとやりとりをする
- ・イラストやメニュー表を提示してもらう
- ・ゆっくり話してもらう

「私の説明書」を作成し、自分自身のことを考えた上で、初対面の人との関わる際にどのように自分の聞こえのことについて伝えるかを考えました。

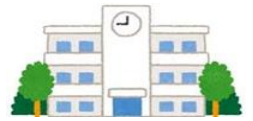


- ・初めに「私の説明書」で記入した聞こえに関する内容を伝えて知ってもらう
- ・自己紹介で自分の希望するコミュニケーション方法を伝える
- ・名刺を作成し、「私の説明書」に記入した内容を載せておくことで知ってもらう
- ・初めに聞こえないことを伝え、スマホのメモ機能でやりとりしてもらう

合理的配慮が法的義務化されたとはいえ、セルフアドボカシーのスキルを高めなければ、自分の周囲の人たちもどう支援をすればよいか分からなかったり、環境が変わらなかつたりすることでしょう。自分自身のことをよく理解し、それを伝えていくことで、周りの人たちにもよく知ってもらえたり、権利やニーズを主張していけたりすることができると思います。この学習だけではなく自分から発信する力を中学部の間に身につけ、卒業後の生活に活かしていくことで、より豊かな人生を送ることに繋がっていくでしょう。

(文責：山中)

私立日本聾唖学校から学ぶ ろう学校の魅力



東京都にある、日本聾唖学校の参観を通して感じたろう学校の魅力についてご紹介します。

補聴機器

日本聾唖学校では、補聴器の相談することができ、その場で子ども達の聞こえに合わせて、医療機関と連携をしながら補聴機器のフィッティング(聞こえる音の調整)をしてもらうことができます。

何かあった時に、すぐに補聴機器の相談をすることができるのは、ろう学校の魅力の1つですね。

本校でも、聴力測定や、補聴機器のフィッティングを行っています。補聴機器やきこえに関して、悩まれていることがありましたらお気軽に相談してくださいね。本校に在籍していない子ども達も、夏と春の補聴相談を利用させていただくことで、きこえの相談をすることができます。

音環境

日本聾唖学校では、子ども達の話し声や教員の声を集音し、赤外線を使って音を直接耳にとどけることができる赤外線補聴システムを導入されています。

本校でも、雑音を低減し、教員の声を直接補聴機器にとどけることができる機器、「ロジャー」の試聴、活用や、県内の高校への貸し出しをすることができます。

また、音環境に関して、教員の話し声の大きさや、ピアノ等の音の大きさを測り、子ども達の耳にとどく音の大きさを調整したりしています。



視覚的な支援

電子黒板の活用や、文字・図表などの視覚支援、授業や保育で扱った内容の掲示など、聾唖学校では、音を聴くことに加えて、子ども達の実態に合わせて、見て分かる環境も大事にされていました。本校でも、手話や、指文字、文字、イラストなど、必要に応じて電子機器も活用しながら、子ども達にとって「分かる」環境を大切にしています。

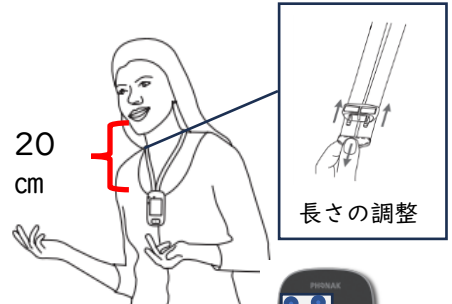
補聴援助システム（ロジャー）の使用について あるある3選

補聴援助システムとは、マイクロホン付きの送信機から直接補聴器や人工内耳に話す人の音声を送ることで、騒音がある中や遠くに話し手がいる場合でも音声が届きやすくなるシステムのことです。地域の小・中・高校に通う子どもたちの多くが学校で使用している「ロジャー」もその1つです。



本体装着の仕方が惜しい！首から掛けた後にもうひと手間

話し手の口元からロジャーのマイクまでの適切な距離は15~20cmです。首から掛けてお使いの場合、ストラップを引っ張り、マイクロンを口元まで近づけてからご使用ください。



衣擦れの音がけっこう聞こえる 🙄

本体が裏返ってしまうと、マイクロホンが服で隠れたり、衣擦れの音ばかりが耳に届いてしまいます。指、服、ゴミなどでマイクロホンがふさがっていないか、確認をしてください。また、冬場のウィンドブレーカーは、シャカシャカした音が聞こえやすいです。できれば音の出にくい衣服を着用していただくと助かります。

3つの穴が
マイクロホンです



ロジャーを使っているから大丈夫（聞こえている）と思われる 🙄

ロジャーを使用することで聞き取りやすくなるはありますが、聴力が改善するわけではありませんので、ロ形や表情をはっきり見せる、板書・プリント・文字・図表の活用など、視覚的支援はロジャーの有無に関わらず必要です。